国際会議参加報告(The International Symposium on Geomechanics from Micro to Macro (IS-Cambridge 2014))[†]

檀 上 堯*

Report on the International Symposium on Geomechanics from Micro to Macro (IS-Cambridge 2014)

by

Takashi DANJO*

IS-Cambridge 2014は、2014年9月1日～3日(3日間)に英国のケンブリッジ大学において開催された。著者は一発表者として、本会議に参加する機会を得たため、本稿では本会議について短文ながら報告させていただきたい。

今回で3回目の開催となった本会議は、国際地盤工学会(ISSMGE)のTechnical Committee 105による支援のもとで企画されたシンポジウムである。第1回および第2回の会議は、2006年に山口大学(日本)、2010年に同済大学(中国)でそれぞれ開催された。

本会議は、9件の基調講演、5つのパラレルセッションから成る口頭発表、そしてポスター発表で構成されており、合計268件の発表が世界中の研究者や技術者によって行われた(図1参照)。また、主催者側が提示した本会議の目的は、微視的な要素が巨視的な挙動にどのような影響を与えるかについて議論することと、地盤工学的な実務への関係を把握することであった。さらに、発表内容は離散解析・連続体解析・実験および調査の3つのパートに分かれており、DEM(数値標高モデル)やCT(コンピュータ断層撮影)での解析結果が多く発表されている印象であった。

本会議のその他の特徴は、パラレルセッションが2または3つ終了した後に、終了したセッションをまとめて振り返る時間(Summary of Parallel Sessions)が1時間半程度設けられていたことである。各セッションリーダーが担当したセッションの発表内容を要約し、今後の課題などを聴衆と議論するというものであった。また、本会議終了翌日の9月4日に若手研究者のシンポジウムが設けられており、博士課程の学生を中心とした若手66名が発表した。

著者は、「Coral sand solidification test using ureolytic bacteria」というタイトルで、ポスター発表(本会議)および口頭発表(若手研究者のシンポジウム)を行った。現地の微生物を用いて、砂供試体を一軸圧縮強さで7 MPaに固化したという実験結果に対して、地盤工学分野の参加者から高い評価をいただいたことは著者に

とって大変励みとなった。また、Conference Dinerでは当大学施設の一つであるKing's Collegeで食事をする機会を得るなど、ケンブリッジという歴史ある町で過ごした6日間は、とても思い出深い日々となった(図2, 3参照)。

図1 口頭発表の様子

図2 Conference Dinnerの会場(King's College)

図3 ケンブリッジの町並み

[†] 原稿受理 平成26年9月29日 Received Sep. 29, 2014 ©2015 The Society of Materials Science, Japan

* 北海道大学大学院工学院 〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目, Graduate Sch. of Eng., Hokkaido Univ., Kita-ku, Sapporo, 060-8628